荒尾市立府本小学校　校長便り　№.１０６

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和8年6月１９日(金)

【独り言】

「自分の将来を変えるには、自分が変わるしかない。」私達は教師が故に、子ども達を己の力で変えようとしてしまう。子ども達の将来に資するために、教師としてのパフォーマンスで良き方向に導こうとする。しかし私には少々違和感がある。私の教師としてのスタンスは「児童の未来の支援者」だ。何故なら、私達がいたからと言って、子ども達の夢が叶えられるとは限らないからだ。それ故、私は子ども達自身が自己改革するように多くの情報を提供し、選択肢の幅を広げ、人生経験を伝え、未来を予測し易くなるようにしている。これまでの経験則から、はっきり言えることは「自分の将来を変えるには、自分が変わるしかない。」ということだ。自分自身が納得し、自分自身による自己改革には、底知れない推進力がある。それに気付いた子は、その後の成長に目を見張るものがある。その逆もあるのも事実だ。府本小学校の子ども達全員が、前者になることを願って止まない。

【雑感】仲間の噂を聞いた時!?

私には人の噂が気になって仕方がない時期がありました。今でもそうかもしれません。自分の噂であれば尚更です。でも、最近やっと「言いたい奴には言わせておけ!」という気持ちになってきました。併せて、自分で見たものや感じたことを信じるようになってきました。なぜそんな気持ちになってきたかというと、ある中国の古典の文書に触れたからです。それは「菜根譚」（洪自誠）という本です。私は書道を嗜みますので、その題材をこの菜根譚からよく選びます。その中の一つにこんな文章がありました。

「悪を聞きては、就（そのまま）には悪（にく）むべからず。悪い情報（良い情報も同じ）は、それを鵜呑みにしてはならない。確かな情報かを慎重に判断する必要がある。私はその様にとらえました。

この文章を府本小学校の子ども達にメッセージとして伝えるために、深読みしてみました。菜根譚を書いた洪自誠さんは、子ども達にはこう伝えるのではないでしょうか。

「悪い噂は、ある人を陥れるために、その人を嫌っている誰かが流しているかもしれない。良い噂だって、ある人が自分をアピールするために、自分で流している可能性もある。つまり、噂って本当かどうかわからないものなんだ。そんな意地悪な人やズルい人が流す噂を、そのまま信じたらダメだよ。信じてしまうと、君が周りの人のことを正しく判断できなくなってしまうかもしれないからね。」

実際の場面を想像してみましょう。A君が悪い噂を流し、B君C君の友情を壊そうとしています。B君に向かって「B君の性格って最低!ってC君が言ってたよ。」次はC君に向かって「C君ってダサいよねって、B君が言ってたよ。」もし、B君C君が子の噂を鵜呑みにして信じてしまったら?…?もう想像できますよね。

何でもかんでも疑うのは疲れるかもしれませんが、噂との付き合い方は疑い過ぎるくらいが丁度良いと、私は思っています。そして何より、自分で見たものや感じたこと、それまでに得た知識や情報を基にして判断することが大切であり、情報が足りなければ、更なる情報収集に取り組めば良いのです。付け加えですが、情報収集の手段はたくさんありますが、私のお勧めはやはり「読書」です。読書に親しみ、多くの情報を収集して欲しいものです。

シリーズ「自分を語る」#１０６

平成21年度、心配された担任業務でしたが、学級は急激に落ち着きを取り戻し、それが多くの結果を出していくことに繋がっていきました。前年度からいらっしゃった職員も、急激な行動変容に「澤田さん、何やったの?」と、狐につままれたような感じで私に尋ねました。私はわざと涼しい顔して「別に何もしていませんよ、いつも通りです。」と答えました。私が当時やっていたことは、「凡事徹底」と「居場所作り」だけです。ほんとに何が特別なことをやったということではありません。そして、1年間を楽しく充実したものにしていくために、ルール遵守の徹底と、担任として子ども達に接するということはベースに「厳しさ」があるということを伝えました。少々厳しい言葉で伝えましたので、子ども達は単に私を怖がって従っていたのかもしれません。しかし、卒業時の文集を読むと、全員が「楽しかった、この学級で良かった。」と綴っていましたので、パフォーマンスは正しかったのだと自分を振り返っています。

5月には運動会が実施されました。まずは運動会を短期スパンの目標として、「何をいつまでにどうする」ということを考えさせました。子ども達は当然のことながら、先輩達のパフォーマンスを超えていきたいと思いますよね。私が担任していた学級では、運動会の「組体操」において、「ピラミッド」と「5段塔」を取り入れていました。（危険を伴いますので、今はできません。）当時の学級では、ピラミッドと塔を完成させるためには、どのような言動が必要かを考えさせました。子ども達からは「トレーニング」「ランニング」等の行動と、「みんなで頑張ろう!」とか「ドンマイ!」「OK!」等の言葉の目標も挙げられました。良い感じに流れてきましたよ、学級が。これらの言動目標は、夏に実施予定の「キャンプ」と「ナイトハイク」に繋がっていきました。

言動の変化は、子ども達の行動と心の変容をもたらし、普段の生活態度も一変しました。大切な1年を、掛け替えのないものにするために、大事に慈しんで過ごしていこうという雰囲気がありました。お陰で、私は担任として楽?な1年を過ごさせて頂いたと思っています。子ども達の自治が成り立つということは、学級が居場所としての機能を発揮するための最低条件です。府本小学校のグランドデザインには「自治的集団作り」を取組の一つとして掲げてあります。私が当時の伊倉小学校でやっていたことと同じことなのです。

話が反れました。運動会の当日、子ども達は見事な「ピラミッド」と「5段塔」を完成させました。5段塔が完成した時、拍手と同時に、保護者のすすり泣く声も聞こえていました。一生懸命は感動を呼ぶのですね。

新年度が始まって2ヶ月足らずで、子ども達は結果を出しました。当時の先生方は呆気にとられていましたが、ランニングやトレーニング、奉仕活動に黙々と取り組む子ども達の姿に、徐々にサポートをしてくれるようになりました。私は6年生が落ち着きましたので、他学年にも目を向けることができるようになり、問題未然防止型の生徒指導もできる余裕が出てきました。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）